

2007年10月5日

第1回 中四国若手 CE 合宿報告

広島大学大学院工学研究科 准教授 木原伸一
岡山大学大学院環境学研究科 准教授 小野努
徳島大学工学部化学応用工学科 准教授 外輪健一郎
(化学工学会中国四国支部 中四国若手 CE 幹事)

1. はじめに

2007年9月28日から29日の2日間に渉り、「第1回 中四国若手 CE 合宿」が開催された。本行事は、中国四国地域における化学工学に携わる（心身どちらかが若い）若手研究者、学生、技術者間の横断的なネットワーク形成と持続的な交流の場を提供する会として、昨年度より立ち上げ準備を進めてきた「化学工学中四国若手 CE」による初の合宿であり、今後のネットワークの一つの形を与える重要な会である。今回本会を開催するにあたって、三菱レイヨン（株）大竹事業所様より、工場見学会と特別講演会では多大なるご協力を賜り、「第1回 中四国若手 CE 合宿」を効率かつ円滑に無事運営することが出来ましこと中四国若手 CE 会員を代表して改めてお礼申し上げます。

第1回中四国若手 CE コロキウム参加者が72名であったことから、当初60名程度の参加を期待して合宿の定員を60名として参加募集を募ったが、工場見学会51名（学生：4大学32名、5大学教員・一般：10名、企業6社9名）、特別講演会52名（学生：4大学32名、5大学教員・一般：11名、企業6社9名）、合宿会44名（学生：3大学27名、4大学教員・一般：9名、企業5社8名）の参加があった。この時期は月末であることや他地区の懇話会行事と重なったため企業からの参加が少なかったこと、また就職内定式前日の休日に重なることもあり学生参加者数が少なかったこと、国際会議など学会に重なった方が大学の先生に多かったことがあげられるが、予定した人数規模であり、中国四国地区で化学工学に関係する若手の積極的な参加と熱気が伝わるには十分な人数が集まったと考える。ただし、参加者が固定化してしまわないように、新しい参加者を集めるアナウンスが毎回必要であろうと感じている。

本報告では、「化学工学中四国若手 CE」の活動を記録に留めることを目的とし、下記のスケジュールに沿って記載しているが、そのときどきの雰囲気筆者の主観により記載していることもあらかじめお断りしておく。また、本合宿についてのアンケート結果を別途集計中あるので、集計完了に紹介する予定である。

「第1回 中四国若手 CE 合宿」のスケジュール（敬称略、順序不同）

【主催】化学工学会中国四国支部若手の会、

【協賛】化学工学会中国四国支部、中国地区化学工学懇話会

【開催期日】 9月28日（金）10:30～9月29日（土）15:00

【開催場所】

① 9月28日（金） 工場見学&特別講演会：

三菱レイヨン（株）大竹事業所 〒739-0693 広島県大竹市御幸町20-1

② 9月28日（金）、9月29日（土） 合宿：

極楽寺温泉 アルカディア・ビレッジ 〒738-0031 広島県廿日市市原 2210 番地

<http://arcadia-v.jp>、電話 0829-38-2221

【経費】

工場見学、講演会参加費： 無料

宿泊費（全食事込み）： 一般・教職員 13,000 円，学生 9,000 円

【スケジュール】（詳細は、「第1回 中四国若手CE合宿 要旨集」に掲載しております）

〔9月28日（金）〕

① 工場見学会（三菱レイヨン（株）大竹事業所内）

10:00 JR 大竹駅前集合

10:05 チャーターバス出発

10:20 三菱レイヨン（株）正門前集合

10:30 三菱レイヨン（株）大竹事業所内へ移動後、班分けし工場見学

12:00～13:00 昼食（親和荘）

② 特別講演会（三菱レイヨン（株）大竹事業所内 レイヨンホール）

13:00 受付開始（要旨集とお茶配布）

13:20 化学工学会中国四国支部支部長 挨拶 [司会] 広島大学 木原伸一

13:30～14:15 特別講演 S 1 [座長] 徳島大学 外輪健一郎

「デバイス上生体高分子の最表面構造実測への挑戦」

島根大学 生物資源科学部 青柳里果

14:15～15:00 特別講演 S 2

[座長] 岡山大学 小野努

「プラスチックの押出技術に生きる化学工学」

(株) 日本製鋼所研究開発本部機械研究所 福島 武

15:00～15:45 特別講演 S 3

[座長] 広島大学 木原伸一

「各種焼却灰の再資源化とその利用法」

広島大学 大学院工学研究科 福井国博

15:45～15:55 総合討論

[司会] 広島大学 木原伸一

③ 合宿

16:00 三菱レイヨン（株）大竹事業所正門前出発（アルカディア様バス&自家用車）

16:45～17:00 到着、合宿受付（参加費、名札配布、部屋割り確認）

17:10～18:30 体育館集合、対抗ドッチボール&ビーチバレーボール大会

18:30～19:15 休憩（温泉）

19:15～19:45 夕食（食堂）

19:45～20:00 ポスター準備&ポスター審査準備（研修室）

20:00～22:00 ポスター発表会（優秀ポスター発表賞を選考）（研修室）

22:00～ 交流会（温泉は6:00～0:00まで利用可）

〔9月29日（土）〕

07:30～08:30 朝食（食堂）

08:30～08:45 若手講演会準備（研修室）

08:45～11:30 若手講演会（研修室）

11:30～11:45 休憩

11:45～12:45 昼食（食堂）

12:45～13:45 若手講演会（研修室）

13:45～14:00 休憩
 14:00～15:00 総会[優秀ポスター発表表彰等] (研修室)
 15:00～ 名札回収後、解散

2. 工場見学会

午前10時20分までに三菱レイヨン(株)大竹事業所正門前集合とした。今回は車で参加が多く、正門から徒歩1分程度の「親和荘」横の駐車場をお借りした。工場見学前に、今年のお盆明けにオープンしたばかりのレイヨンホールに案内された。このホールは400名以上



(a) 牧野生産技術研究所所長様より挨拶 (b) 工場見学前の説明会の様子

図1 三菱レイヨン(株)大竹事業所 工場見学会.

も収容できる非常に大きなホールで、1Fは私立大学のキャンパスを思わせる食堂が完備され、とても綺麗な建物であった。本会の参加者は50名弱であり、会場サイズとしてはややオーバースペックであったが、マイク、プロジェクター設備などの充実していた。尚、喫煙場が白壁の一部のドアから入るため気づきにくかった。

工場見学会では、今回の工場見学で調整頂いた、モノマープロセス開発 Gr.リーダーの佐藤晴基様の司会で、まずはじめに、三菱レイヨン(株)生産技術研究所所長牧野英顯様からご挨拶があり、「個々の単位操作だけではだめで総合力がなければ製品が作られないこと、そのためには情報交換がとても大切」とご教示頂き、「win[®]の関係の大切さ(単なる win-win でなく、win-win-win・・・win)」の関係の大切さを説かれた。その後同事業所で生産されている製品が作られるまでの工程について非常に分かりやすいビデオが流され、本若手の会のメンバーの平野貴之様より、今回の工場見学のポイントについて説明があった。今回は大竹事業所の主力製品である MMA と AN が、ナフサから作られるプロセスの説明よりも、その後の具体的な二次製品(素材)が作られるまでのプロセスについて説明があった。これは前回の第1回コロキウムでの工場見学会を配慮したためである。生産技術研究所では、半数が化学系、4割が機械系、1割が電気系の出身であるとのことであった。プラント設計から生産技術の高度化までを含めた非常に広範囲のプロセスに関わる仕事であることもよく分かった。

その後、事業所内を大型バス1台(学生+大学)、小型バス(企業)1台に分乗し、企業向け、学生・教員向けの二つの見学コースに別れ工場見学会を実施した。企業の方はバスからの見学であったようであるが、学生・教員向けには、ボンネをつくるプロセスをダイから押出された樹脂からフラットヤーンになるまでのプロセスが見学できた。学生からは、製品が具体的に作られている工程を見ることができ、精製された化成材料がどのように製品になっていくかが実感できたとする意見が多数あり、蒸留中心のプロセスとは違った感じがとても好評であった。大学の先生の方では、細かなプロセス条件の設定や乾燥工程などが勉強になったという意見もあった。

工場見学後、三菱レイヨン様の方で、準備して頂いた弁当(千円相当)とお茶を提供いただき、親和荘で全員で和気藹々と昼食をとった。

3. 特別講演会

特別講演会の前に、(社)化学工学会中国四国支部支部長 古田武先生より、ご挨拶を賜り、交流の重要性を強調していただいた。中国四国支部からは、本若手の会に財政的支援(バス等の交通費、会場費、交流会費など)の他、様々な場面でご支援頂いている。誠に感謝する次第である。特別講演会では、スケジュールに掲載した3名の特別講師の方にお話し、ご自身の研究開発を中心に講演頂いた。青柳先生は、TOF-SIMSを利用した吸着タンパク質の表面観察について説明がなされた。化学工学を心にもって研究されている言葉に、信念を感じた。タンパクへの応用は難しい面もあるが、新しい分析装置として興味深かった。福島様には、押出機でなにができるかについて説明があり、特に脱気プロセスに関心が寄せられた。分離プロセスがプロセスのエネルギーコストの60%を占めるなど具体性があったことも聴講者の興味を引いたと思われる。福井先生からは焼却灰の再利用としてフィリップサイトに新利用する方法、プロトン伝導膜として新利用する方法が具体的なメカニズムを検討しながら示された。原料の不純物による製品特性の偏りや核形成についての質問等があった。

特別講演会は、単なる合宿での会員内の発表会では得られない、深い議論が出来る場であるので今後も継続的に実施していきたい。今回のアンケートでも特別講演は勉強する意味で重要との意見が多く、3件程度が妥当との意見があった。一方で、講演の間に休憩を挟んでほしいとの意見が散見されたが、最近では学生の持続的な集中力が無くなってきている様に思われる。尚、今回も講演者の写真はございません。

4. スポーツイベント

特別講演会後、三菱レイヨン(株)大竹事業所を後にして、合宿会場に向かった。時間が押し気味であり、高速道路を利用した移動であった。小職を含め3台ほど道に迷うハプニングがあったが、無事17時半ごろには全員が到着した。

スポーツイベントは、山本先生(広島大)の的確な審判のもと、地区対抗戦でビーチバレーボールとドッチボールが開催された(図2)。勝ち抜け戦で2面のコートをうまく使い二つの競技を行った。アンケートでも学生と企業の人との交流が自然とできてよかったとする意見が多かった。また、敗戦チームにも何等かのゲームができる仕組みが必要だったかもしれない。尚、大人の厳しさを知っている、山口地区チームが各地区の学生チームを破り優勝し(図3)、翌日の第2回総会にて交流会の貴重な残りものをすべて寄贈させて頂いた。



図2 スポーツイベントの様子 (アルカディア・ビレッジ 体育館)。

スポーツイベント企画

9/28 17:00~18:30(アルカディア)

ドッジボール(7 min)兼ビーチバレーボール(7 min)大会

総得点=ドッジボールの生き残り数×2+ビーチバレーボールの得点×1

- ※ 外野の復活可、頭部を狙った場合は危険球退場扱い、外野のサイド攻撃不可
- ※ ドッジボール全滅の場合、即試合終了
- ※ 同点の場合は、ビーチバレーボールの得点の多い方を勝者とする
- ※ 1チーム六、七名
- ※ 広島・岡山県で広島市より西側出身 or お勤めの方は山口 or 島根へ、
岡山市より東側出身の方は鳥取 or 徳島へ配置換え可
- ※ 優勝チームには、懇親会で余ったビール等のお持ち帰り権利半分だけ進呈



図3 スポーツイベント トーナメント戦結果.

宿泊施設には温泉(ラドン冷泉)があり、スポーツイベントに参加した会員は各々温泉につき、ほぼ予定通り、夕食をいただいた。夕食、朝食、昼食ともに豪勢であったが、予算の関係で食事にはビールなどのアルコールは提供しなかった。

5. ポスター発表会

ポスター発表会では、26件のポスターが発表された。ビールなどを片手に、大学および企業の方に5件以上、学生は1件のみ審査をお願いし、一人あたり総得点9点満点でポスター発表を審査していただいた。また、単なる採点でなく、ポスターへのアドバイスを記載する欄を設け、それを無記名で学生に返却した。審査項目は次の3項目とし、要旨集は今回採点対象とはしていない。

- (1) ポスター：内容の分かり易さ、工夫の有無、アピール性
- (2) 発表方法：ストーリー性、説明の明確さ、発表態度・口調
- (3) 質疑応答：質疑応答の的確さ、応答態度・口調

今回、ポスターを発表して意見を聞くだけでなく、書面でコメントがもらえると何が問題だったか記憶に残るだろうと思ったがコメントがあつてよかったという意見も聞いていないので、効果薄だったかもしれない。26件のポスターで奇遇でオブリゲーション時間を設けたが、じっくりポスターをみて徹底的に議論する方にはポスター時間が短すぎ、非常に迷惑をおかけした。

ポスター発表では、学生からは、考えていたこととは別の視点で議論できて勉強になったという意見が多くきかれ、ポスター発表を通じて互いの研究を知り、交友関係が作られたのではないかと思う。企業からも指摘があつたが、一目でなにをしているかアピールするポスターで無いといけなとか、説明が的確にできていない、通りがかりの人を捕まえないとダメ、など厳しい意見もあり、それら意見が学生自身の向上心につながることを期待する。海外での学生達のポスター

ではそのような呼び込みは当たり前なので、そのような勢いはほしいものである。

当初ポスターサイズは、多数のポスター発表を期待して当初 A2 サイズとコンパクトに考えていたが、参加人数の関係から、自由に使ってもらえるスペースを広げるため最大 A0 サイズまでの可とした。ポスター発表がはじめて学生さんにはその規格でないといけないと思われた方も多く、多少混乱を招いた。ポスター発表ではそのサイズ通り作らないといけないこともないので、臨機応変に対応してほしいと思ったが、こちらの不手際であったかもしれない。例えば、ポスターを三次元的に作ってもよいものである。また、ポスターを貼り付けるボード（壁）が非常に硬く、画鋸が使えないところが多く、両面テープを用意したが、もっと強力なテープを購入しておけばよかったと反省している。ポスターを紙でなく、布にするアイデアは非常によいと思った。



図4 ポスター発表会の様子。温泉上がりで浴衣姿の人もいた。交流会は、場所を変更し、この後同じ部屋で交流会を開催した。

【ポスター発表リスト】

P01 超高圧印加プロセスによる高分子集合体形成と形態制御

○(学)六雄伸吾(岡大院環)・(未)木村剛(東医歯大生材)・(正)小野努(岡大院環)・
(正)岸田晶夫(東医歯大生材)

P02 温度周期操作を利用した一酸化炭素の酸化反応

○(学)石花健太(徳島大工)・(学)黒田勝也(徳島大院先端教育部)・(正)外輪健一郎(徳島大院 STS 研)・
(正)杉山茂(徳島大院 STS 研)・(正)中川敬三(徳島大院 STS 研)

P03 界面活性剤対イオンの W/O マイクロエマルジョンのサイズと相分離に対する効果

○(学)高階志保(岡山大院自)・(正)吉田幹生(岡山大院自)・(正)後藤邦彰(岡山大院自)・
(正)押谷潤(岡山大院自)

P04 感温性多孔質ゲルによる内分泌攪乱物質の吸着分離特性の検討

○(学)平良真人(広大院工)・(正)後藤健彦(広大院工)・(正)迫原修治(広大院工)

P05 環境低負荷型分散重合における分散安定剤分子量の影響

○(学)中島拓朗(岡大院環)・(正)小野努(岡大院環)

P06 マイクロリアクタによるアジン合成の高効率化

- (学)遠地恵伍(徳島大工)・(学)畑野修一(徳島大院先端教育部)・(正)外輪健一郎(徳島大院 STS 研)
 (正)杉山茂(徳島大院 STS 研)・(正)中川敬三(徳島大院 STS 研)
- P07 パルスエアジェットの付着粒子除去効果に対する実験的考察**
 ○(学)岡崎峰也(岡山大院自)・(正)吉田幹生(岡山大院自)・(正)後藤邦彰(岡山大院自)・
 (正)押谷潤(岡山大院自)
- P08 感温性ポリマーの親・疎水転移を利用した浄水汚泥の脱水**
 ○(未)矢木誠一(広大工)・(学)日名子亮介(広大工)・(正)迫原修治(広大工)
- P09 ポリアミノ酸マクロモノマーを用いた分散共重合の粒子形成挙動**
 ○(学)富田恵介(岡大院環)・(正)小野努(岡大院環)
- P10 塩添加噴霧熱分解法による GaN ナノ粒子の合成と特性評価**
 ○(学)荻崇(広大工) (未)改發 豊(広大工)・(未)Ferry Iskandar(広大工)・(正)奥山喜久夫(広大工)
- P11 気液界面を反応場を用いた棒状 Aragonite 合成とその形状制御**
 ○(未)河野遼(岡山大院自)・(正)吉田幹生(岡山大院自)・(正)後藤邦彰(岡山大院自)・
 (正)押谷潤(岡山大院自)
- P12 アモルファスシリカ膜における水素および水透過のMDシミュレーション**
 ○(学)福島健平(広大工)・(正)吉岡朋久(広大工)・(正)都留稔了(広大工)
- P13 高分子分散安定剤の構造制御による単分散生分解性高分子ミクロスフェアの創製**
 ○(学)村中誠(岡大院環)・(正)小野努(岡大院環)
- P14 噴霧熱分解法によるポーラス粒子の合成と特性評価**
 ○(未)改發豊(広大工)・(学)荻崇(広大工)・(未)Ferry Iskandar(広大工)・(正)奥山喜久夫(広大工)
- P15 沈降天秤法における分散媒変化が粒子分散性に及ぼす影響の検討**
 ○(未)森本誠(岡山大院自)・(正)吉田幹生(岡山大院自)・(正)押谷潤(岡山大院自)・
 (正)後藤邦彰(岡山大院自)
- P16 SC-CO₂を用いた PGSS 法によるポリマーの微粒子化**
 ○(学)藤田淳志(広大院工)・(学)弓削輝泰(広大院工)・(正)木原伸一(広大院工)・
 (正)春木将司(広大院工)・(正)滝島繁樹(広大院工)
- P17 生分解性高分子を用いた水性二相系へのアフィニティー機能の重量化**
 ○(未)安川政宏(岡大院環)・(正)小野努(岡大院環)
- P18 マイクロインデンテーション法による PC ハードコーティング材の表面強度評価**
 ○(未)林秀憲(広大工)・(正)磯本良則(広大工)
- P19 高温環境下での粒子付着特性評価**
 ○(未)谷村英樹(岡山大院自)・(正)篠原秀徳(岡山大院自)・(正)吉田幹生(岡山大院自)・
 (正)押谷潤(岡山大院自)・(正)後藤邦彰(岡山大院自)
- P20 有機ハイドライド脱水素反応における触媒膜型反応器の開発**
 ○(学)矢田和也(広大工)・(正)吉岡朋久(広大工)・(正)都留稔了(広大工)
- P21 W/O マイクロエマルジョンの塩添加によるサイズと相境界への影響**
 ○(未)矢野ひさよ(岡山大院自)・(正)吉田幹生(岡山大院自)・(正)後藤邦彰(岡山大院自)・
 (正)押谷潤(岡山大院自)
- P22 メタノール/ジメチルカーボネート系におけるセラミック多孔膜の浸透酸化特性**
 ○(学)佐々木明史(広大工)・(正)吉岡朋久(広大工)・(正)都留稔了(広大工)
- P23 コアセルベーション法による電気泳動型マイクロカプセル表示素子の調製**
 ○(未)廣田健(岡大院環)・(正)神尾英治(岡大院環)・(正)小野努(岡大院環)
- P24 懸濁重合法によるナノ顔料-ポリマーコンポジット粒子の合成**
 ○(未)羽倉暢宏(広大工)・(未)Hendri Widiyandari(広大工)・(未)Ferry Iskandar(広大工)・
 (正)奥山喜久夫(広大工)
- P25 制御ラジカル重合用水溶性 TEMPO 誘導体の合成およびその物性評価**
 ○(未)大浦浩平(岡大院環)・(正)久保田潤(岡大院環)・(正)小野努(岡大院環)
- P26 超臨界 CO₂+界面活性剤+水系における相挙動の研究**
 ○(学)松浦一彦(広大工)・(学)丹藤順志(広大工)・(正)春木将司(広大工)・(正)木原伸一(広大工)・(正)滝島繁樹(広大工)

6. 交流会

交流会では、今回も反省点が多いが、企業と大学教員のグループができてしまい、学生との交流が十分でなかったことが大きな反省点である。ポスター会場では、会社、大学教員が朝3時ごろまで、学生同士個別の部屋で朝5時ぐらいいろいろ話をした学生もいた様である。主催者としては、交流会担当を明確につくっておいて、全体での乾杯を含め取り仕切ってもらわなければならないかと思う。大部屋でよかったとする意見と個別の部屋を決めてそこで交流会を行っ

た方がよかったのではないかとする両方の意見があった。結果的には主催者側の仕切り方の問題なので、小職的には大部屋でよかったと思っている。

尚、交流会終了後、部屋の散らかり様はひどく、本来なら、学生幹事を中心にそれらを片づけるなどの配慮がほしかったが、結局迫原研の学生さんと春木先生らが早朝に自主的にかたづけにいただいた。個人的には翌日の反省として全員の手で片づけようとおもっていたが、自主的に動いていただき感謝する次第である。本若手の会では学生がお客さんになることは避けたいと思っている。成人らしく責任をもって対応してほしいと思う。この点については総会にて、学生幹事の荻君の方から反省の言があった。

7. 若手講演会

翌朝は、企業および大学教員による講演会を開催した。講演件数は14件で、1件あたり発表7分、質疑応答7分、交代1分の計15分でスケジュールを組んでいたが、多少の時間オーバーは許しながら講演会を開催した。今回の講演では、研究内容というより、会員の思っていることや自己アピールの場として考え、企業、大学関係者の参加者全員に発表して頂いた。そのため、企業の方では重複した内容が多かったが、それはやむを得ないと考える。企業からの出席では、やはり個人的意見をこのような場であっても発表は難しいのかもしれない。今回特に業務に関係することだけという、縛りを掛けていないので、自由に意見を言ってもらえるテーマであってもよかった。次回以降は、テーマを決めてディスカッション、ディベート形式なども企画してみたいと思っている。(ここまで来ると会社の新人研修のようになりそうです。)



図5 若手講演会の様子

【若手講演会リスト】

- I. 08:45~10:00 【座長】木原伸一・林田昌大
- 08:45~09:00 L01 液滴生成や迅速抽出に使える“岡山発”マイクロリアクター
○(正)小野努(岡山大院環)・(正)神尾英治(岡山大院環)・(正)久保田潤(岡山大院環)・(正)吉澤秀和
- 09:00~09:15 L02 メタクリル酸メチルモノマー合成と触媒開発
○(正)前原桂子(三菱レイヨン(株))
- 09:15~09:30 L03 深溝型マイクロリアクターの開発と性能評価
○(正)外輪健一郎(徳島大院 STS 研)・(学)高木要(徳島大院先端教育部)・
(正)杉山茂(徳島大院 STS 研)・(正)中川敬三(徳島大院 STS 研)
- 09:30~09:45 L04 ㈱クラレ 会社紹介
○(正)杉山雄太(㈱クラレ)
- 09:45~10:00 L05 溶媒+ポリエチレン系の液液平衡
○(正)春木将司(広大院工)・杉浦広明(広大院工)・(正)木原伸一(広大院工)・
(正)滝島繁樹(広大院工)

10:00～10:15 コーヒーブレイク

II. 10:15～11:30【座長】 外輪健一郎・杉山雄太

10:15～10:30 L06 ー化学工学専攻出身者がパイロットプラント設計業務を通して思うこと

○(正) 香東明広(㈱三菱化学科学技術研究センター)

10:30～10:45 L07 複合化感温性多孔質ゲルによる有機汚泥の脱水に及ぼす合成条件の影響

○(正) 後藤健彦(広大工)・福田晋也・(正) 迫原修治(広大工)

10:45～11:00 L08 化学工学者の位置

○(正) 平野貴之(三菱レイヨン㈱)

11:00～11:15 L09 マイクロカプセル物性制御に関する化学工学的検討

○(正) 神尾英治(岡山大院環)・(学) 米村 慧(岡山大院環)・(正) 吉澤秀和(岡山大院環)・(正) 小野 努(岡山大院環)

11:15～11:30 L10 新規プロセス開発業務の流れ

○(未) 二十歩暁男(宇部興産㈱)

11:30～11:45 休憩

11:45～12:45 昼食 (食堂)

III. 12:45～13:45【座長】 小野努・平野貴之

12:45～13:00 L11 当社のご紹介および 入社してからの体験談

○(正) 林田昌大(三菱レイヨン(株))

13:00～13:15 L12 微粒子の分かれ目

○(正) 山本徹也(広大工)・(正) 吉田英人(広大工)

13:15～13:30 L13 化学工学の必要性

○(正) 近藤敬介(㈱トクヤマ)

13:30～13:45 L14 化学工学を学ぶ意義の再考と超臨界二酸化炭素を利用した有機材料プロセッシング

○(正) 木原伸一(広大院工)

13:45～14:00 休憩

8. 第2回総会

総会前に、ポスター発表賞の紹介、授与があった。

優秀ポスター発表賞は、投票された点数で、2件以上の平均値で評価し、以下の4名を優秀ポスター発表賞として、化学工学会中国四国支部支部長 古田武先生名で、古田支部長から表彰頂いた(図6)。3件予定で、2件同点であったため4件にした。今回諸事情で、2件しか審査結果が無かったためこのような審査基準を設けたが、もっとも総合得点が高かった人気表彰も加えてもよかった。審査方法もポスター発表の仕方(5グループに分けてそれを順に全員で質問しあう等)ももっと工夫が必要であった。今回初めてポスター発表した学生も多く接戦であったが、概ね博士課程の学生の方が点数が高かった。受賞者を以下に示す。おめでとうございます。



図6 ポスター発表受賞者(右から、高階、中島、矢田、谷村両氏)

高階志保 様(岡山大学) 「界面活性剤対イオンのW/Oマイクロエマルジョンのサイズと相分離に対する効果」

中島拓朗 様(岡山大学) 「環境低負荷型分散重合における分散安定剤分子量の影響」

谷村英樹 様(岡山大学) 「高温環境下での粒子付着特性評価」

矢田和也 様(広島大学) 「有機ハイドライド脱水素反応における触媒膜型反応器の開発」

また、スポーツイベントでの優勝チームに持ちきれないほどの記念消耗品(?)贈呈があった。

総会の詳細は、議事録(案)を参照してほしい。総会後に、全員で記念撮影を行った。写真と

名前を図7に示す。(写真と名前が一致してない場合、木原までご連絡ください。)

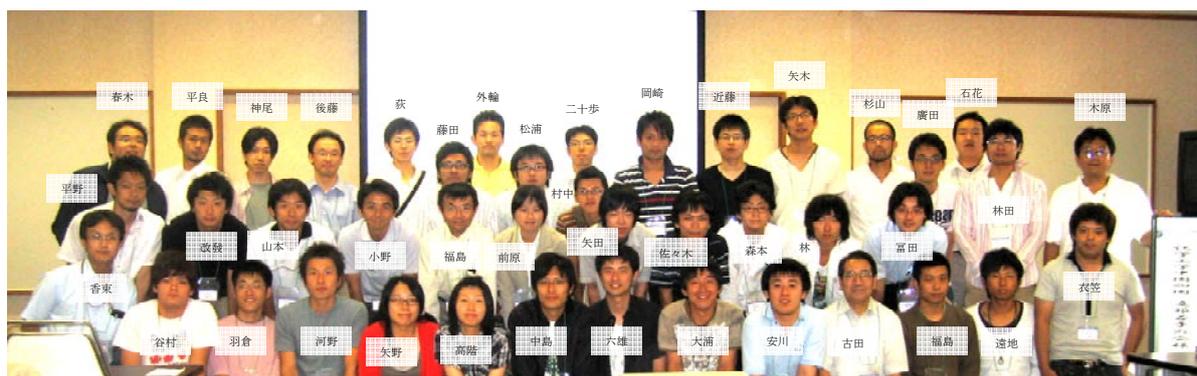


図7 第1回中四国若手CE合宿を終えての記念撮影。

9. おわりに

第1回中四国若手CE合宿は、熱意をもって参加された方が多く、前回以上に有意義な交流ができたと思う反面、ものごとがかたちづくられる緊張感と達成感がえられたかどうか、もう少しのように正直思っている。参加者がもっともっと得るものがあるように、積極的に自分の意見を言い合い、議論し、若手の会の活性化(いつも遷移状態)になる雰囲気をつくってもらいものである。そうでないと、数年後には参加者の多くはこのような会があったことを忘れてしまうだろう。三菱レイヨン(株)の佐藤晴基様からのメールにあったが、10年後この会を開催してどうなっているかを楽しみにされているかたもいらっしゃる。

今回、主に準備を担当した木原の方はこの会のような準備は学会開催の要領で比較慣れているはずで業務の傍ら準備したが、連絡が遅くなったり直前に連絡を入れる状態であった点は反省しており、このような会を開催する前に事前に役割分担を明確にすることでスムーズに対応できる体制を用意しておく必要があった。なるべく他の先生方に負担にならぬように注意したが、いくつかの先生方にお手伝い頂いた。あらためて感謝します。来年度以降は、学生幹事を中心に学生会員から積極的に準備に加わって頂き、本会を盛り立ててほしいと考える。本会はある意味何でもできる会であり、年齢に関係なく個人の強い「心持ち」を形にしたコンセプトを全面に出すことが大切であり、化学工学的にいうと「運用の妙は一心に存ず」で、実験的試行錯誤の妙で運営してみてもおもしろいあり方が見えるかもしれない。

最後に、化学工学会中国四国地区ではもっと多くの企業の方、学生の方の交流ができるはずであるが、そのような方々を絶えず見いだすにはどうしたらよいか、その課題は大きいですが、企業の方、大学教員、学生それぞれにとって魅力ある交流の場を設ける意義は十分ある。今回のような活気あるネットワーキングを今後も継続的に保っていくことができれば、本地区を出発点として将来の化学工学技術者の人材育成にも必ずや貢献できるものと確信しているが、同時に現在の幹事が全員入れ替わっても数世代後も同様に維持できる仕組みも考えておく必要がある。本会の持続的発展は会員皆様方の御協力なしにはなし得ないことは明白であり、今後も会員皆様方の御協力を賜り、同時にいろいろな忌憚のない意見を幹事を含め会員全員に投げかけて頂きたいと思っている。

末筆になりましたが、本講演会を主催した化学工学会中国四国支部若手の会(中四国若手CE)

を代表しまして、御協力頂いた三菱レイヨン（株）大竹事業所の皆様，特に、今回調整役を課って頂いた、三菱レイヨン（株）大竹事業所 生産技術研究所 佐藤晴基様には多大なるご協力を賜りました。また、参加された全ての皆様に心より感謝致します。

以上